

なかつがわ全市景気ウォッチャー調査

〈市内の景気の動向を接客や取引を通じて肌で感じている人たちによる客観的な景況感調査〉

平成23年9月調査結果

現在の景気の現状判断は、7月より10.2%悪化の27.0%と、下向きに転じた判断となっています。

次に1年前と比べた場合の景気の前年判断では、7月と比べ10.1%悪化し33.2%となっています。

また、3ヶ月前と比べた場合の景気の現状判断では、7月と比べ17.5%悪化し37.9%となっています。

3～6ヶ月先の景気の前向き判断では、7月と比べ9.5%悪化し33.1%という下向きの予想となっています。

◎ 全体的には、消費マインドや企業活動の回復が見込まれる一方で、天候不順や長引く円高による景気の前向き懸念などから、一時的に景気が悪化傾向に転じたものと思われま。

また、雇用についても製造業で非正規雇用の求人の動きが見られたものの、正規職員の採用を中心に企業の慎重な姿勢が続いているものと思われま。

こうしたことから、景気の前向きは「これまで緩やかに持ち直してきたが、このところ弱い動きが見られる」ものと思われま。

平成23年10月13日

なかつがわ全市経済対策本部

調査の概要

○調査の目的

市内の景気の動向に関連のある人々の協力を得て、市内の景気動向を的確かつ迅速に把握し、景気動向判断の基礎資料とする。

○調査の対象

- 1 対象地域 市内全域
- 2 調査客体
家計動向、雇用等の代表的な経済活動に携わる、さまざまな業種の方々、45名

○調査事項

- 1 景気の現状に対する判断（方向性）
- 2 1の理由
- 3 2の追加説明及び具体的状況の説明
- 4 景気の先行きに対する判断（方向性）
- 5 4の理由

○調査の時期

調査は隔月、当月時点で、調査期間は毎月25日から月末まで(今回は10月7日まで)

○有効回答率

82.2% 有効回答客体 37名

○判断方法

日本銀行で発表している「主要(全国)企業短期経済観測調査」いわゆる「日銀短観」や内閣府で発表している「景気動向指数」に使われている経済指数をディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)略して「DI」といいます。

「DI」には、「日銀短観」で使われる単純に3つの選択肢、たとえば「良い」、「変わらない」、「悪い」を用意し、回答から%を求め「良い」の%から「悪い」の%を引いた指数(%ポイント)が0を境に0以上になれば景気回復、0以下になれば景気後退を示す方法と「景気動向指数」のように3つ以上の選択肢を用意し、その選択肢に均等に0~1の評価点を与え、それぞれの回答から%を求めそれぞれの評価点を乗じたものの合計を指数(%ポイント)として50を境に50以上になれば景気回復、50以下になれば景気後退を示す方法の二つが主に使われています。

前者に比べ後者の方が選択肢が幅広くなり、より正確な指数を得ることができます。

今回の調査は、選択肢を5つ用意していますので、「景気動向指数」と同じ後者の方法で判断するものとします。

1 DI値の算出方法

5段階の判断にそれぞれ以下の点数を与え、これらに各判断の構成比(%)を乗じて、DI値を算出する。

評価	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている
評価点	1	0.75	0.5	0.25	0

2 DI値について

DI値が50の場合は横ばいを示し、0に近づくほど景気後退傾向、逆に100に近づくほど景気回復傾向であることを示す。

100 ← 50 → 0
 良くなっている 変わらない 悪くなっている

例えば

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
調査結果	8	9	9	10	9
構成比(%)	17.8	20.0	20.0	22.2	20.0
各DI値	17.8	15	10	5.6	0
DI値(合計)	48.4			⇒	ほんの少し景気が後退している

となります。

調査の結果

1 現在の景気の現状判断

現在の景気の現状判断としては、7月より10.2%ポイント悪化の27.0%ポイントと、下向きに転じた判断となっています。

内訳では、家計動向関連の小売関連で16.1%ポイント悪化し21.4%ポイント、飲食観光関連で2.1%ポイント悪化し36.4%ポイント、サービス関連では20.0%ポイント悪化し10.0%ポイントとすべての項目で下向きの判断となっています。

また、雇用関連でも、7月より3.6%ポイント悪化し35.7%ポイントと、下向きの判断となっています。

表1 9月構成比

	良い	やや良い	どちらとも言えない	やや悪い	悪い	未回答	D I 値
合計	0.0	2.7	35.1	29.8	32.4	0.0	27.0
家計動向関連	0.0	3.3	30.0	30.0	36.7	0.0	25.0
小売関連	0.0	7.1	7.1	50.0	35.8	0.0	21.4
飲食観光関連	0.0	0.0	63.6	18.2	18.2	0.0	36.4
サービス関連	0.0	0.0	20.0	0.0	80.0	0.0	10.0
雇用関連	0.0	0.0	57.1	28.6	14.3	0.0	35.7

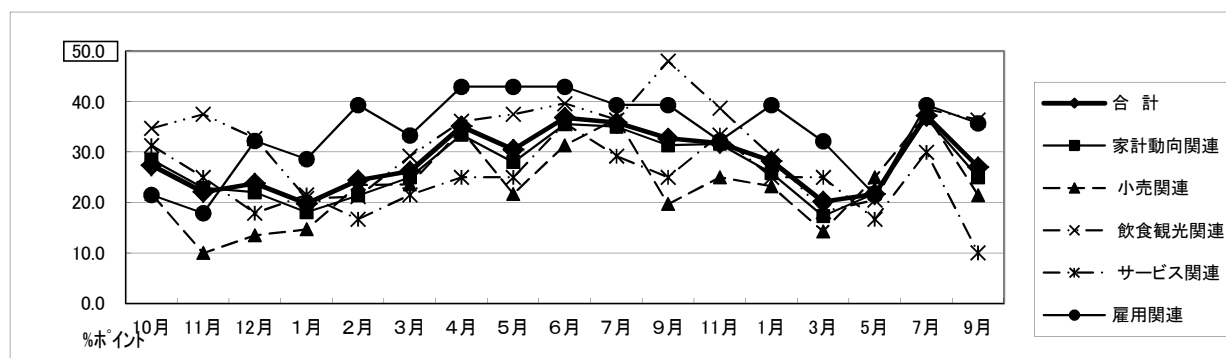
※「未回答」は、「どちらとも言えない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良い	やや良い	どちらとも言えない	やや悪い	悪い	未回答	D I 値
2010	1 1	2.7	2.7	32.5	43.2	18.9	0.0	31.8
2011	1	0.0	5.1	28.2	41.0	25.7	0.0	28.2
	3	0.0	2.8	25.0	22.2	50.0	0.0	20.2
	5	0.0	0.0	23.7	39.5	36.8	0.0	21.7
	7	2.7	13.5	27.0	43.3	13.5	0.0	37.2
	9	0.0	2.7	35.1	29.8	32.4	0.0	27.0
	(前月差)	(-2.7)	(-10.8)	(8.1)	(-13.5)	(18.9)	(0.0)	(-10.2)

表3 D I 値の推移

	2010年		2011年				(前月差)
	1 1月	1月	3月	5月	7月	9月	
合計	31.8	28.2	20.2	21.7	37.2	27.0	(-10.2)
家計動向関連	31.6	25.8	17.3	21.8	36.7	25.0	(-11.7)
小売関連	25.0	23.2	14.3	25.0	37.5	21.4	(-16.1)
飲食観光関連	38.7	29.2	18.2	20.5	38.5	36.4	(-2.1)
サービス関連	33.4	25.0	25.0	16.7	30.0	10.0	(-20.0)
雇用関連	32.2	39.3	32.1	21.5	39.3	35.7	(-3.6)



2-1 1年前と比べた場合の景気の現状判断

1年前と比べた場合は、7月に比べ10.1%が悪化の33.2%と、小売・飲食観光関連で下向きに転じた判断となっています。

内訳は、家計動向関連のサービス関連で5.0%が改善し15.0%と回復の判断となりましたが、小売関連で18.7%が悪化し25.0%、飲食観光関連は15.6%が悪化し36.4%と下向きの判断となっています。

また、雇用関連は7月より7.2%が改善し57.2%と、上向きを示す判断となっています。

表1 9月構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	未回答	D I 値
合計	0.0	19.0	21.6	32.4	27.0	0.0	33.2
家計動向関連	0.0	13.3	16.7	36.7	33.3	0.0	27.5
小売関連	0.0	7.1	21.5	35.7	35.7	0.0	25.0
飲食観光関連	0.0	18.2	18.2	54.5	9.1	0.0	36.4
サービス関連	0.0	20.0	0.0	0.0	80.0	0.0	15.0
雇用関連	0.0	42.9	42.8	14.3	0.0	0.0	57.2

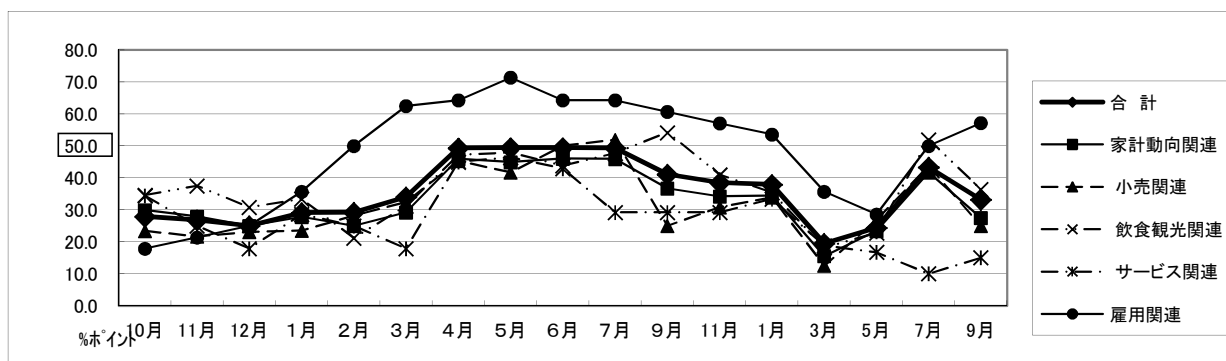
※「未回答」は、「変わらない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	未回答	D I 値
2010	1 1	2.7	16.2	27.0	40.5	13.5	0.0	38.5
2011	1	0.0	18.0	33.3	30.8	17.9	0.0	37.9
	3	0.0	5.6	11.1	38.9	44.4	0.0	19.5
	5	0.0	5.3	18.4	44.7	31.6	0.0	24.4
	7	8.1	19.0	27.0	29.7	16.2	0.0	43.3
	9	0.0	19.0	21.6	32.4	27.0	0.0	33.2
	(前月差)	(-8.1)	(0.0)	(-5.4)	(2.7)	(10.8)	(0.0)	(-10.1)

表3 D I 値の推移

	2010年 1 1月	2011年 1月	3月	5月	7月	9月	(前月差)
合計	38.5	37.9	19.5	24.4	43.3	33.2	(-10.1)
家計動向関連	34.2	34.4	15.5	23.4	41.7	27.5	(-14.2)
小売関連	30.8	33.9	12.5	26.8	43.7	25.0	(-18.7)
飲食観光関連	41.0	35.4	18.2	22.8	52.0	36.4	(-15.6)
サービス関連	29.2	33.4	18.8	16.7	10.0	15.0	(5.0)
雇用関連	57.1	53.6	35.7	28.6	50.0	57.2	(7.2)



2-2-1 3ヶ月前と比べた場合の景気の現状判断

3ヶ月前と比べた場合は、7月に比べ17.5%が悪化の37.9%と、下向きに転じた判断となっています。

内訳は、家計動向関連の小売関連で21.1%が悪化し26.8%、飲食観光関連は18.0%が悪化し45.5%、サービス関連では10.0%が悪化し30.0%とすべて下向きの判断となっています。

また、雇用関連でも、7月より10.7%が悪化し53.6%と、下向きを示す判断となっています。

表1 9月構成比

	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	未回答	D I 値
合計	0.0	13.6	37.8	35.1	13.5	0.0	37.9
家計動向関連	0.0	13.3	26.7	43.3	16.7	0.0	34.2
小売関連	0.0	7.1	21.4	42.9	28.6	0.0	26.8
飲食観光関連	0.0	27.3	27.3	45.4	0.0	0.0	45.5
サービス関連	0.0	0.0	40.0	40.0	20.0	0.0	30.0
雇用関連	0.0	14.3	85.7	0.0	0.0	0.0	53.6

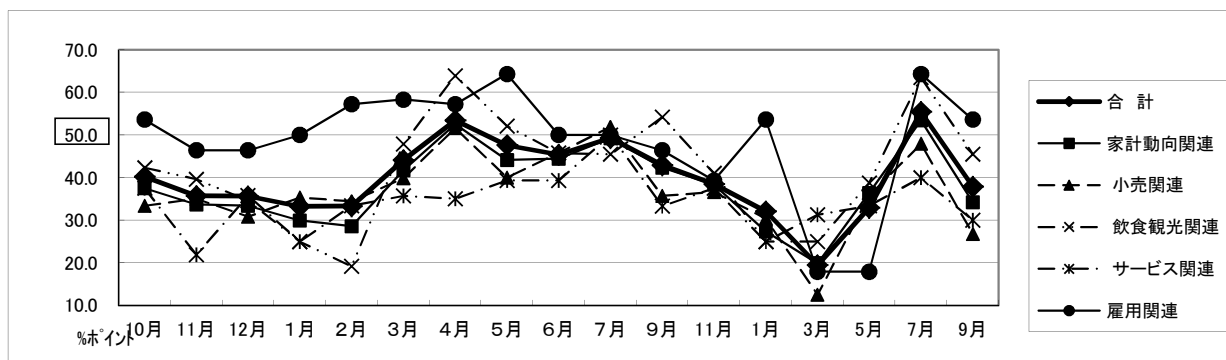
※「未回答」は、「変わらない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良く なっている	やや良く なっている	変わらない	やや悪く なっている	悪く なっている	未回答	D I 値
2010	1	0.0	10.8	45.9	29.7	13.5	0.0	38.5
2011	1	0.0	5.2	41.0	25.6	25.6	2.6	32.1
	3	2.8	0.0	16.7	33.3	47.2	0.0	19.5
	5	2.6	13.2	18.4	44.7	21.1	0.0	32.9
	7	8.1	27.1	40.5	21.6	0.0	2.7	55.4
	9	0.0	13.6	37.8	35.1	13.5	0.0	37.9
	(前月差)	(-8.1)	(-13.5)	(-2.7)	(13.5)	(13.5)	(-2.7)	(-17.5)

表3 D I 値の推移

	2010年 11月	2011年 1月	3月	5月	7月	9月	(前月差)
合計	38.5	32.1	19.5	32.9	55.4	37.9	(-17.5)
家計動向関連	38.3	27.4	19.9	36.4	53.4	34.2	(-19.2)
小売関連	36.6	30.4	12.5	35.8	47.9	26.8	(-21.1)
飲食観光関連	41.0	25.0	25.0	38.7	63.5	45.5	(-18.0)
サービス関連	37.5	25.0	31.3	33.4	40.0	30.0	(-10.0)
雇用関連	39.3	53.6	17.9	17.9	64.3	53.6	(-10.7)



2-2-2 3ヶ月前と比べた場合の景気の判断理由

判断の理由として家計動向関連の小売関連では、購買意欲の低下による売上の減少などから「販売量の動き」が71.4%、「単価の動き」と「お客様の様子」が42.9%、と多くなっています。

飲食観光関連では、天候不順による来客者の減少などから「お客様の動き」が36.4%と高くなっています。

サービス業関連では、天候不順による来客者の減少などから「来客数の動き」が80.0%と高くなっています。

次に、雇用関連では、企業の正規職員の採用に慎重な動きに伴う雇用の減少などから「求人数の動き」、「周辺企業の様子」それぞれで42.9%、と多くなっています。

	①来客数の動き	②販売量の動き	③単価の動き	④お客様の様子	⑤競争相手の様子	⑥それ以外
家計動向関連	36.7	43.3	26.7	36.7	10.0	3.3
小売関連	28.6	71.4	42.9	42.9	7.1	7.1
飲食観光関連	27.3	27.3	18.2	36.4	9.1	0.0
サービス関連	80.0	0.0	0.0	20.0	20.0	0.0
	①求人数の動き	②求職者数の動き	③採用者数の動き	④雇用形態の様子	⑤周辺企業の様子	⑥それ以外
雇用関連	42.9	14.3	14.3	14.3	42.9	0.0

※複数回答による割合

3 3～6ヶ月先の景気の先行き判断

景気の先行きについては、消費マインドや企業活動の回復が見込まれる一方で、円高など景気回復の足かせとなる懸念材料もあり、7月に比べ9.5%ポイント悪化して、33.1%ポイントと下向きを示す予想のものとなっています。

内訳は、小売関連で8.0%ポイントの悪化を見込み23.2%ポイント、飲食観光関連では14.0%ポイントの悪化を見込み34.1%ポイント、サービス関連では横ばいという予想となっています。

また、雇用関連では、7月に比べ7.2%ポイント悪化の50.0%ポイントと下向きを示す予想となっています。

表1 9月構成比

	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	未回答	D I 値
合計	0.0	8.1	35.2	32.4	21.6	2.7	33.1
家計動向関連	0.0	6.6	26.7	36.7	26.7	3.3	29.1
小売関連	0.0	7.1	14.3	42.9	35.7	0.0	23.2
飲食観光関連	0.0	0.0	45.5	27.3	18.1	9.1	34.1
サービス関連	0.0	20.0	20.0	40.0	20.0	0.0	35.0
雇用関連	0.0	14.3	71.4	14.3	0.0	0.0	50.0

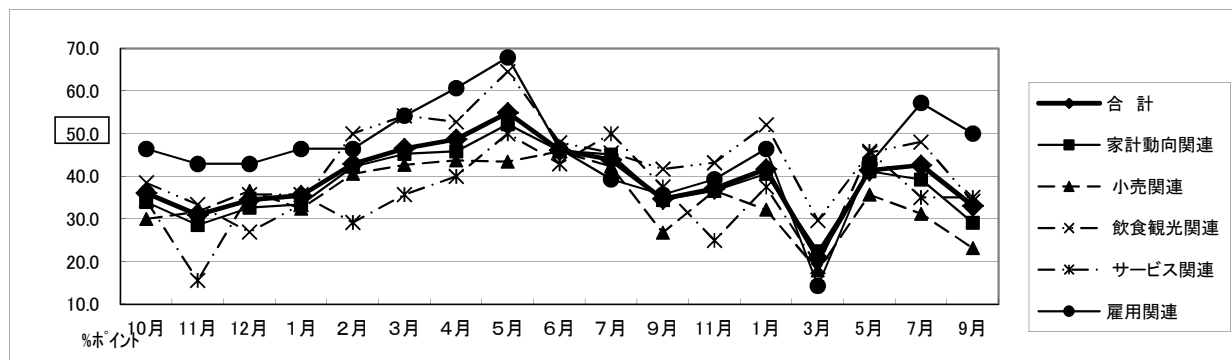
※「未回答」は、「変わらない」に見なしてD I 値を計算

表2 毎月の構成比

年	月	良くなる	やや良くなる	変わらない	やや悪くなる	悪くなる	未回答	D I 値
2010	1 1	0.0	10.8	40.5	29.7	16.2	2.7	37.1
2011	1	5.1	15.4	33.3	28.2	15.4	2.6	41.7
	3	0.0	11.1	13.9	22.2	52.8	0.0	20.8
	5	2.6	18.4	34.2	21.1	18.4	5.3	41.4
	7	5.4	13.5	37.9	32.4	10.8	0.0	42.6
	9	0.0	8.1	35.2	32.4	21.6	2.7	33.1
	(前月差)	(-5.4)	(-5.4)	(-2.7)	(0.0)	(10.8)	(2.7)	(-9.5)

表3 D I 値の推移

	2010年		2011年				(前月差)
	1 1月	1月	3月	5月	7月	9月	
合計	37.1	41.7	20.8	41.4	42.6	33.1	(-9.5)
家計動向関連	36.6	40.6	22.4	41.2	39.2	29.1	(-10.1)
小売関連	36.6	32.2	17.9	35.7	31.2	23.2	(-8.0)
飲食観光関連	43.2	52.1	29.6	45.5	48.1	34.1	(-14.0)
サービス関連	25.0	37.5	18.8	45.9	35.0	35.0	(0.0)
雇用関連	39.3	46.4	14.3	42.9	57.2	50.0	(-7.2)



景気の現状判断の理由

分野	景気判断		調査対象	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明		
	3ヶ月前	1年前					
家 計 動 向 関 連	やや良くなっている	やや良くなっている	小売店	販売量、単価の動きとお客様の様子	・以前より比較的、単価の高いものが動きはじめた。		
			道の駅	販売量の動き	・販売量は堅調に伸びている。		
			ホテル	来客数の動き	-		
	変わらない	やや悪くなっている	居酒屋	お客様、競争相手の様子	・自分の店がひまな時、他店を見に行くんですが大体ひまです。		
			福祉施設	来客数の動き	・生活福祉資金の相談者が減らない。		
			スーパー	販売量の動き	-		
				レストラン	お客様の様子	・自動車関連企業の木金休み、連休のならば、天候等の諸条件を鑑みても昨年と同様です。	
			旅行代理店	お客様の様子	・ツアーの申込みでも申込があるのはサンクスデーなど安い日。		
			やや悪くなっている	悪くなっている	商店街関係者	来客数、販売量の動き	・客数減。
					自動車販売	販売量の動き	-
					道の駅	販売量の動き	・季節物については、それなりの数字が上がるが、全般的には、若干落ちる。
			やや悪くなっている	変わらない	タクシー運転手	来客数の動きと競争相手の様子	・サラリーマンの出張の減少。
					小売店	販売量、単価の動きとお客様の様子	-
	やや悪くなっている	小売店		販売量、単価の動きとお客様の様子	-		
		商店街関係者		震災の余波、円高	・先行きの不安からか必要な品物しか売れない。		
		小売店		単価の動き	・客単価が少ない。		
		スーパー		来客数の動きとお客様の様子	-		
		レストラン		来客数の動き	・来店日数の減少。		
		食堂		単価の動き	・来客数に変化はあまりないが。		
		居酒屋		来客数の動き	・若い人達が来客数として減っていると思います。		
旅館		単価の動きとお客様の様子		-			
悪くなっている		小売店		単価の動き	・震災後節約志向がたかまり、必要な商品だけ購入されるお客が多くなっている。		
		道の駅		販売量の動き	-		
		理容店		来客数の動き	-		

			タクシー運転手	お客様の様子	・お客様の乗車数が相変わらず減っている。町の活気と比例している感じ。
悪くなっている	悪くなっている		商店街関係者	販売量の動き	-
			小売店	来客数、販売量、単価の動きとお客様、競争相手の様子	・わかると思いますが、人口減、景気悪化の為、弊社としては間口を広げて100%の売上げに保っています。
			小売店	来客数、販売量の動きとお客様の様子	-
			小売店	販売量の動き	・長雨、台風による野菜の高騰による販売不振。
			美容室	来客数の動き	・来客数の減少9月は天候不順のせいかも。
雇用関連	やや良くなっている	やや良くなっている	労働相談所	周辺企業の様子	・製造業の生産活動が回復している。
	変わらない	やや良くなっている	職業安定所	求人数の動き	・新規求人数は前年と比べれば改善しているが、前月と比べると頭打ちとなっている。
			自治体労働政策担当	周辺企業の様子	・製造業を中心に企業の仕事量に増加傾向がみられるが、企業によっては円高の影響が依然強くあり収益性の増加までは見込めない状況である。
			労働金庫	周辺企業の様子	・新たな企業進出・雇用創出などの動きもなく現状の変化が見られない。
	変わらない	やや良くなっている	学校就職担当	求人数の動き	・地元が若干少ないが昨年並み。
			人材派遣会社	求人数、求職者数の動きと雇用形態様子	・①自動車部品で求人動きが活発となっている。・・・一時的の感じが強い。②正社員の採用は各企業とも慎重を期しており厳しい状況。(来年度不透明が強い。)
	やや悪くなっている		学校就職担当	採用者数の動き	・昨年指定校推薦枠をいただいていた企業からの求人がいくつかなくなった。また、一社あたりの求人数も全体的に減少した。

景気の先行き判断の理由

分野	景気の判断	調査対象	追加説明及び具体的状況の説明
家 計 動 向 関 連	やや良くなる	小売店	・天候の回復。
		福祉施設	・震災復興に向けた需要が高くなると思うから。
	変わらない	スーパー	-
		自動車販売	-
		道の駅	-
		道の駅	・これから寒くなり、来客も少なくなると思う。
		レストラン	・良くなる要素、悪くなる要素も無いから。
		ホテル	-
		旅行代理店	・半年先の事は分からないと思う。
		タクシー運転手	・このままでは、変わらない。自社でも努力してるが、町全体が良くなりません。
	やや悪くなる	商店街関係者	-
		小売店	-
		小売店	・増税問題がどう消費マインドに影響するかで良くも悪くもなり得る状態。
		小売店	-
		小売店	-
		スーパー	-
		レストラン	・災害、円高による。
		食堂	・10月より食料品他光熱費などの値上りで支出が減るのではないか。
		居酒屋	・外食が少なくなってきたように思います。居酒屋までは行っても、その後は帰宅という事もあり、若い人は二次会には参加しないようです。
		理容店	-
タクシー運転手		・労働時間の時間制限が厳しくなってきた。 (お客様の) ・収入が毎月減っている。	
悪くなる		商店街関係者	・所得税等、増税に向かっているため、GDPが上がらず景気は後退すると思われる。
	商店街関係者	・良くなる状況にないと思いますが。	
	小売店	・アメリカ、日本ともに時代 (歴史) の末期に入ってくると思います。	
	小売店	・どの家庭もゆとりがなくなっている。	
	小売店	-	

		居酒屋	・商売をはじめて景気が良いと思ったことはない。地域の行事、冠婚葬祭、帰省、癒しそのような事がくるくる回ってるだけ。
		旅館	-
		美容室	・良くなる要素が全く無い。
	無回答	道の駅	-
雇 用 関 連	やや良くなる	労働相談所	・新規求人数の増加基調が続いている。有効求人倍率8月に1.10倍と、この1年で最も高くなった。
	変わらない	労働金庫	・具体策が見えてこない。
		学校就職担当	-
		学校就職担当	・これ以上悪くなるとも思えないがよくなっていく要因も見あたらない。このままの状態推移するのではないか。
		人材派遣会社	・①明るい兆しがみえない。先行き不安、見通しがたたない。②スポット的には、繁忙を極めているが、雇用の面では厳しいと予想される。
		自治体労働政策担当	・国の追加経済対策が実施されるまでは、当面現在の状況が続くと思われます。
やや悪くなる	職業安定所	・円高の進行、ヨーロッパの金融不安など日本経済にとって懸念材料が多い。	